OTSUKI Community Workers Report 2015-2017

open!

この日「岩田邸」ではセルフドリップコーヒーが味わえる「JUN喫茶」がオープン。

人をつなぎ、地域の魅力にスモールビジネスの種をまく

「地域おこしの担い手は住民。きっかけを提供し、サポートしていくのが協力隊」。「衣食住＋街道」をテーマに、地域の人と人をつなぎ、小さなビジネスの種を蒔いてきた、林隊員の３年間。

林　厚志　はやしあつし
映像制作プロデューサー、農村振興に関わるＮＰＯ団体などの経験を経て、富山県から協力隊として移住。

地域の活性化とは経済の活性化と考え、地域の資源を活かした「スモールビジネス」をつくることを目標に活動してきた。「衣食住」プラス「街道」をテーマに地域の資源を見つめ直し、それらを結びつけることで、新たに活かす道を探った。

郡内織物の活性化（衣）、耕作放棄地の活用（食）、自転車観光客の誘致（街道）などを目指し、企画を提案（写真参照）。なかでも力を入れてきたのが、「住」にあたる、空き家や古民家の活用だ。空き家を地域の人の交流の場として整備することで、中心市街地の活性化につなげたいと考えた。物件を探していたところ「岩田邸」と出会い、活用を開始。

まずは室内で使う机や座布団をつくるワークショップを、市内工務店やふとん店に講師を依頼し、開催。できるだけ多くの人に岩田邸に関わってもらうことを大事にして、空間づくりを進めて来た。

２０１７年３月には、岩田邸の運営や総合的なまちづくりを目的とした団体「とりあえず大月総合研究所（ツキラボ）」を市民有志メンバーとともに設立し「おもしろそうなことをとりあえずやってみる」をモットーに活動を展開。岩殿山で登山客にコーヒーを提供する「イワーバックスコーヒー」、かがり火市民祭りでの岩田邸開放、通りすがりに人のつながりが生まれるよう、猿橋をモチーフに設計した腰掛け「モンキーチェア」の設置など、アイデアを出し合い形にしてきた。

現在岩田邸は、コミュニティスペースやチャレンジショップとしていろいろな利用が生まれ、人が集まる場になりつつある。

「ツキラボ」のメンバーであり、岩田邸で「ＪＵＮ喫茶」を開く藤本純子さんは「岩田邸は自分がやってみたかったことを実現できる場所。地域で成功体験を積める

衣

ツタキ織物と西桂町地域おこし協力隊と協働で郡内織物のネクタイを開発。お酒をモチーフにした４種類のデザインが揃う予定。

start 2015

4
- 大月市地域おこし協力隊着任

5
- ＪＲ八王子駅構内での大月市観光ＰＲ活動参加

6
- 「中小企業活路開拓調査・実現化事業」説明会に参加
- 市内養蚕農家視察
- 市内の竹文化を調査

7
- 矢立の杉年次大祭
- 大月市内飲食店（Niiyah Cafe）に、ツタキ織物の商品と郡内織物の紹介スペースを設置

8
- 「エコの里」から大月市立中央病院へのジャガイモ搬入作業開始（月一回）
- かがり火市民祭り協力

9
- 養蚕農家 芦沢定弘氏（南巨摩郡）、松沢製糸工場（長野県諏訪郡）へ取材

10
- 私のお酒プロジェクトにスタッフ参加開始（～２０１７年度）
- 大ツキ軽トラ市協力

ことで、このまちにいて良かったと思える」と感じている。

「地域で何かやりたいと思っている人を発掘して横につなげていきたかった。岩田邸は地域の人が〈実はやりたかったこと〉をやれる場であってほしい」（林隊員）。取り組みを通して、その器づくりが出来たのが一番の収穫だ。「田舎は人が最終的な資源」。今後も岩田邸をよりオープンで多くの人が関われる場にし、地域おこしのきっかけになりうる場にしていきたい。

元々映像制作プロデューサーの経験を持つ林隊員。企画し、全体を見渡してまとめていくことが仕事だ。「（自分は）スペシャリスト（専門家）ではなくジェネラリスト（何でも屋）。担い手ではなく、プロデュースすることが仕事」。あくまでも地域おこしの担い手は住民。それを後ろから支援するのが協力隊の役割だと考え、活動してきた。しかしこうした仕事は元々行政職員の本分であり、立ち位置が重なることで職員の理解が得られにくく、活動を進める上でスムー

食

右：地産地消の促進を図り、イオン大月店（旧ダイエー）に地元野菜販売コーナーを設置。現在５組の生産者グループが出荷／左：食のグリーンツーリズムのモデルを探る「私のお酒プロジェクト」（大月短期大学佐藤茂幸教授主催）にスタッフとして参加。（上：酒米の田植え体験、下：参加者がラベルをデザイン）

2016

11
- 第2回大月桃太郎伝説 扇山～百蔵山トレイルラン 協力

12
- イオン大月店（旧ダイエー）に地場野菜販売スペース設置

1
- 体験民宿等の開業支援セミナーへ参加

2
- チェーンソー講習会参加

3
- 沢井工務店との協働で県産材木製自転車スタンド設置開始
- 初狩地区古民家（みどう本陣・山本周五郎生誕ゆかりの家）の活用を模索

4
- 郡内地域地域おこし協力隊研修会参加@小菅村

5
- 手織り体験教室in古民家ツアー

7
- 県産材木製自転車スタンド第2号設置開始
- 岩田邸活用模索開始

ズにいかないこともあった。
けれども、外からの視点を持つ林隊員だからこそ、柔軟な発想と粘り強い働きかけで、担い手を育ててくることができた。
「芽が育ち実がなるには時間がかかる。これからも見守っていきたい」。

街道

自転車客が立ち寄りやすいよう、県産材木製自転車スタンドを沢井工務店と協働開発。市章をモチーフにデザイン。市内外 10 数カ所に設置、受注生産を行う。

住

左：道行く人の交流の場になるよう設置した腰掛け「モンキーチェア」。／右上：岩田邸で開催された「こども会議」。市民が気軽に利用できるスペースになっている。／右下：岩殿山で登山客にふるまったイワーバックスコーヒー。遊び心が活動の原点。

goal!

2018

- 3　大月市地域おこし協力隊卒業

2017

- 10　・ツタキ織物と西桂町地域おこし協力隊との協働で郡内織物の新商品開発開始
- 10　・岩田邸にて「モンキーチェア」WS開催
- 3　・「とりあえず大月総合研究所（ツキラボ）」設立、岩田邸の運営開始
- 1　・岩田邸にて座布団づくりWS開催
- 12　・岩田邸にて机づくりWS開催
- 10　・遺伝子組み換え蚕視察・調査（農業生物資源研究所）
- 8　・岩田邸にて市政50周年記念誌「時をつなぐ街」パネル展開催
- 8　・セブンイレブン財団「セブンの森」誘致活動

and start...

林隊員ってどんな人？

地元からのメッセージ

天野　俊一 さん　大月市酒米づくり協議会会長

酒米生産者として「私のお酒プロジェクト」に携わる天野さん。「林くんみたいな、外部から違う目で見て、一歩踏み出すことができる人材が市（役所）には必要。いないと困る」。大月には資源があるのに、一つ一つがバラバラで活かされていないのが現状。それをつなげられる人材が林さん。初狩地区の古民家「みどう本陣」をプログラムに組み込む提案をしたり、市外からの「米づくりがしたい」という問い合わせに対してプロジェクトを紹介したり、林さんがさまざまな人とモノをつないでくれた。今では参加者と生産者との個人的な交流が深まったり、新規就農者の獲得に結びついたり、当初は予想もしていなかった波及効果が生まれつつある。

天野さんはプロジェクトや大月の今後を考えさまざまな提案を持つ。それに対して林さんは単に賛同するのではなく、いつも現実的な意見を言ってくれる。「つっかかってくるところがいい（笑）」。

中島　啓介 さん　後藤　晶 さん　とりあえず大月総合研究所（ツキラボ）代表・事務局長

「林さんが核になってくれたから岩田邸を活用できた」と代表の中島さん（写真右）。大家さんから地域のために岩田邸を活かしてほしいといわれていたが、不動産業を営む中島さんが片手間に出来ることではなかった。もし林さんがいなかったらこの話は断るしかなかったという。

林さんのいいところは「信念を曲げないところ」。長いものにまかれず、目的に沿った頑固さがあり、そのためには闘うところ。

大月の人には先輩後輩など、連綿とした縦のつながりがある。しがらみがあり、横につながりをつくるのが難しい。林さんはしがらみがなく、ぐいぐい話ができる。扇子の要の役割をしてくれている。

「地域にはコンテンツ（モノ）とコンテクスト（ストーリー）がある」と後藤さん。「コンテンツは目に見えるのでわかりやすいが、ストーリーは地元にいると気づきにくい。地域にはそれらがバラバラに存在していることが多い。それを編むことで地域の価値をつくろうとしているのが林さん。手放してはいけない人材だと思う」。

Suzuki Ryohei

点と点を結び、地域の魅力に独立の夢を叶えた３年間

名勝猿橋、桂川の清流、四季折々の山の恵み、地域の人々。点在している資源をつなげることが地域最大の魅力になる。地域に溶け込み、アウトドア事業おこしに取り組んできた、鈴木隊員の３年間。

鈴木　涼平　すずきりょうへい
アウトドア事業などの経験を経て、協力隊として東京都から移住。国体自転車競技での優勝経験もあり。

活動3年目となる2017年度は、真木地区の金の森山荘との協働によるシャワークライミングツアーの企画開発に力を入れて来た。かねてからアウトドア体験事業をおこないたいと考え、市内で最適なフィールドを探していた。奈良子地区などいくつか候補地を検討するなかで、真木地区に出会い、環境の良さに惚れ込んだ。真木川の両側から広葉樹がトンネルのように枝を伸ばし、新緑から紅葉まで、四季を通じて川に入って景観を楽しむことが出来る。また、近隣には拠点となる金の森山荘を始めとして、ガラス細工の工房や富士山のビューポイントなどが点在し、様々な体験を提供できる立地にある。アウトドア体験だけでなく、近隣の施設と連携することで人を呼び、観光地として地域全体の付加価値を高めていきたいと考えている。

2017年夏に本格始動する予定だったが、折悪しく直撃した台風や長雨などに悩まされた。現在は、フィールドの空間デザインや冬季の体験メニューの掘り起こ

真木地区真木川の清流でシャワークライミング

start!

2015

4 **大月市地域おこし協力隊着任**
2日目に行政の仕組みと活動の進め方に戸惑い本気で辞めようと考え、林隊員にさとされ踏みとどまる。

5
・市内観光資源研究調査

8
・郡内地域地域おこし協力隊研修会参加@上野原市
・かがり火市民祭り参加
・ラッキーシティラン参加
・「エコの里」から大月市立中央病院へジャガイモ運搬作業開始

9
・宮谷地区神輿参加

10
・町民体育祭参加（宮谷選手団）

11
・猿橋遊覧に向け大月市産業観光課職員と、ラフトボートで試乗調査をする

12
・宮谷地区からラフティング拠点予定の梁川地区へ引越す

2016

1
・桂川ウェルネスパーク付近雪資源模索

2
・猿橋住民200名猿橋遊覧に乗って理解を深めて頂く

Suzuki Ryohei

し、都市部への営業など、金の森山荘オーナーとともに、様々な仕掛けづくりに奔走している。

任期後は「協力隊の協力隊になりたい」と語る鈴木隊員。この3年間を経て、「夢はあるけどお金も時間もない」という若者に、地域おこし協力隊という選択肢があることを紹介したいと思うようになった。それというのも、着任当初に活動の進め方に戸惑い、一度は本気で辞めようと思いながらも、諦めずに活動の仕方を模索し、協力隊として自身の夢を叶えてきたからこそ。

前職は青梅でラフティング事業に携わっていた。独立し、桂川の清流をフィールドに事業を行いたいと考え、大月市の協力隊に応募。しかし、市内にはラフティング事業を行う事業体が既にあり、新規事業参入による弊害が生じないよう配慮が求められ、着任後半年間は思うような活動がままならなかった。

転機となったのは初年度の冬。名勝猿橋の下での遊覧船運航を提

猿橋遊覧に向け試乗調査

2017

3
- 大月市長、鳥沢出身の三遊亭小遊三師匠に猿橋遊覧に乗って頂く
- テレビ東京「美の巨人たち」撮影協力

4
- 「猿橋遊水舎」を立ち上げ猿橋遊覧の運航を開始
- NHK「日曜美術館」撮影協力

5
- 梁川地区住民の方々と石和温泉で懇親会

9
- 梁川地区神輿参加

10
- 真木地区「ジャストワン」とペットフード用鹿肉商品共同開発

11
- 猿橋遊覧乗客延べ1229人（年）

12
- 野良猫保護活動（ねこねっと山中湖に協力）
- 山ブドウ蔓カゴ編み講習会受講

1
- 青山ファーマーズマーケット参加、「山羊さんの贈り物」販売促進協力

案し、市産業観光課職員に試乗してもらったことで、事業の魅力が伝わり職員の理解が生まれた。これを機に、地元住民を対象に体験乗船会を行ったり、取り組みがメディアに取り上げられたりするなかで、行政や地元住民の理解が一気に広がり、その後の活動を展開していく後押しとなった。

現在は、猿橋遊覧に加え、真木地区でのシャワークライミングやラフティング、また、農作物に深刻な影響を与えているシカやイノシシを自ら捕獲し、地元猟師と連携して「ペットフードジビエ」として有効利用する事業など、地元住民との協働を大事にしながら、自然資源を活かした事業をスタートさせている。

3

年間の準備期間があったからこそ、事業おこしができた。「協力隊のいいところは、地域の人に喜ばれること、受け入れられること。その上で事業おこしが出来ること」。任期後はまずは事業を軌道にのせることが目標。その上で、これまでのノウハウを多くの人に伝えていきたい。

「猟師涼平の鹿肉」と名付け鹿肉を販売。杉田さん（左頁）とのイベントへのコラボ出店では、試食の鹿肉に惹かれ犬が飼い主を連れて来た。持ちつ持たれつで相乗効果を狙う。

goal!

2018

- 2 ・新潟県長岡市川口町雪洞火ぼたる祭りスノーラフト協力
- 3 ・真木地区「金の森山荘」とシャワークライミング共同企画開始
- 4 ・「ペットフードジビエ」ジャーキーをドギーパークで常設販売開始
- 6 ・梁川地区にてフクロウを保護し山梨県鳥獣保護センターへ
- 8 ・岩殿山土砂災害復旧活動に協力
- 10 ・UTY「山梨イマジン」に紹介される
- 11 ・猿橋遊覧乗客延べ358人（年）（長雨の影響）
- 12 ・岩田邸にてアケビ蔓編み教室開催
- 3 大月市地域おこし協力隊卒業

and start...

鈴木隊員ってどんな人？

地元からのメッセージ

三木　範之 さん　名勝猿橋周辺地区活性化協議会委員長

猿橋遊覧の体験乗船会で、地元猿橋地区の住民に顔が売れた鈴木隊員。地元の人にも遊覧は人気があり、回覧板で乗船の希望をとると、特に女性やお年寄りからの希望が多かった、と話すのは自治会の組長を務めていた三木さん。「下から見るという外からの視点で、ほったらかしだった猿橋が活かされた」「何事にもバイタリティがあるのが涼平くんのいいところ。猟友会にも入り、地域に溶け込む努力をしている。しがらみがなく、誰に対しても裏がなくオープンにものが言える。いいと思ったことはストレートに言える。教えることもあるし教えられることもたくさんある」と三木さん。

協力隊による町おこしとは、事業おこしだと考えている。「商売が成り立ち、食べていけるように頑張って欲しい。それが一番の望みで、嬉しいこと。ゆくゆくは同じ事業主仲間として同じステージで話しができるようになりたい」。

杉田　優子 さん　ジャストワン代表

真木地区でわんちゃんと飼い主さんのためのブランド服の専門店「ジャストワン」を経営する杉田さん。鹿肉のペットフード利用を目指す鈴木隊員のプロデューサーのような存在。「（鈴木隊員は）今はヒヨコ。自立してもらいつつ、対等になりたい。今までは公務員として縛られている部分もありつつ守られてもいた。それが終わり、今度は民間になり同じ土俵に入って来る。しゃがまないといけないこともあるだろうけど、乗り越えて民間として頑張ってほしい。ペットのイベントの企画などいろいろ一緒にしていけたらと楽しみにしている」。

金森　正浩 さん　金の森山荘オーナー

同じく真木地区の、金の森山荘の金森さん。「新しいことをやることで既存のものが活きる」と考え、鈴木隊員とタッグを組む。自らもウェットスーツを購入し、ともに川に入り体験メニューのアイデアを出し合って来た。これからも刺激しあっていきたい。

養蚕農家・製糸工場視察
（2015.9）林

チェーンソー講習会受講
（2016.2）林、鈴木

市内地質調査
（2016.10）林

エコの里から大月市立中央病院へジャガイモ運搬
（2015.8 ～ 2016.4）鈴木・林

古民家・
空き家を
活用したい

竹文化調査
（2015.6）林

協力隊初任者研修参加
（2015.12）林・鈴木

郡内地域協力隊研修会参加
（2015 ～ 2016）林・鈴木

こんなことも
してきました

協力隊の日々

活動のひとコマ

住民の方と石和の温泉施設にて懇親会
（2016.5）鈴木

梁川地区の
みなさんと

地域の
困りごとの
お手伝い

登山道ハチ駆除
（2017.9）鈴木

冬こそ
資源発掘の
チャンス

雪資源の活用を模索
（2016.1）鈴木

みどう本陣の活用調査
（2016～）林

山の資源を
活かしたい

アケビ蔓ランプシェードづくりワークショップ開催
（2017.12）鈴木、林

必要な
資格取得

小型車輌系建設機械特別教育
受講（2016.2）鈴木

大月市
地域おこし協力隊
活動報告書
2015-2017

地域おこし協力隊とは

2009 年度から開始された総務省による制度。都市部から、人口減少や高齢化が進む地域に住民票を移動し生活の拠点を移した者を、地方自治体が「地域おこし協力隊」として委嘱。任期は最長 3 年間。隊員は地域おこしに関わる活動を行いながら、その地域への定住を目指す。

発行　大月市地域おこし協力隊　　発行日　2018 年 3 月 31 日　　デザイン・制作　香西恵